

はじめに

本市では、1960年代の高度経済成長期の急激な人口増加や社会環境の変化、市民ニーズの多様化などに応える形で、教育文化施設やコミュニティ施設などをはじめ、多くの公共施設の整備を進めてきました。

しかしながら、この時期に整備された施設は建設後すでに相当の年数が経過しており、建替えの一つの目安とされる築後30年を経過した施設の割合も過半数を超え、施設の老朽化や設備、機能の陳腐化が指摘されています。また、利用者の多様化や経済環境の変化、人口動態など様々な要因により利用率が低下してきている施設もあるなど多くの課題が山積しています。

厳しさの続く財政状況下でこうした諸問題を解決するためには、施設で実施されている事務事業の有効性の検証と合わせ、計画的な施設の再整備や長期的視点からの改修計画、維持管理計画の検討など、施設の利用実態やコストパフォーマンス等を踏まえた市民目線での施設の検証が不可欠です。

そこで私は、NPM（ニュー・パブリック・マネジメント＝新たな公共経営）の考え方を施設マネジメントの基本に置きながら、本市施設の現状を積極的に公開するとともに、今後の公共施設のあり方について幅広い議論を進めることが重要と考え、今回その基礎的な資料となる「公共施設マネジメント白書」を作成することとしました。

この白書では、本市の保有施設を重要な資産の一つとして捉え、その現状（施設の状況や運営状況、利用実態やトータルコスト等）を様々な角度から整理・分析した上で、施設を通じた行政サービスの現状と課題を明確にするとともに、本市市政の特徴の一つである「13地区別」の施設の実態や利用状況などについても整理・分析を加えました。

おそらく全国的にも初めてとなる新たな視点での分析を加えたこの白書の発行が一つのきっかけとなって、今後市民の皆さんをはじめ各地区、各方面で様々な議論が巻き起こることを期待するとともに、公共施設の再整備と一層の有効活用を図りたいと考えています。また、市民満足度をさらに高めるためにも、公共施設を含めた本市の資産、資源を活かした都市経営、市民目線の市民経営への展開を図り、「一生住み続けたい湘南^ま藤^ち沢」の実現に向けて、より効率的、効果的な市政運営を進めてまいります。

今後とも、皆様のご理解とご協力を心よりお願いいたします。

2008年（平成20年）11月

藤沢市長 海老根 靖典

***** 目 次 *****

| | |
|--------------------------------------|----|
| 第1章 藤沢市の概要 | |
| 1. 市の概況 | 1 |
| 2. 市の歴史 | 2 |
| 3. 市民の1日の流出入状況..... | 3 |
| 4. 鉄道乗降客数及び地区別人口密度..... | 4 |
| 5. 市の人口 | 5 |
| 6. 市の財政状況 | 8 |
| 7. 市の職員数 | 10 |
| 第2章 市が保有する財産の状況及び資産の有効活用の必要性 | |
| 1. 市が保有する財産の状況 | 11 |
| 2. 市が保有する土地・建物の内訳 | 12 |
| 3. 市が保有する施設の築年別整備状況 | 13 |
| 4. 行政運営から行政経営へ | 14 |
| 5. 資産の有効活用の必要性 | 15 |
| 第3章 地域対応施設の現状 | |
| 1. コスト情報とストック情報の的確な把握 | 16 |
| 2. 対象施設一覧 | 17 |
| 3. 用途別実態把握 | |
| (1) 市民センター・公民館 | 18 |
| ① 概要（設置目的）（運営時間）（事業内容）等 | |
| ② 建物状況（スペース構成）（建物総合評価） | |
| ③ 事業内容【市民センター機能】【公民館機能】 | |
| ④ 利用状況 | |
| 【市民センター機能】 | |
| ・利用状況（窓口利用件数等）（市民活動支援事業・地域環境整備事業） | |
| 【公民館機能】 | |
| ・利用状況（利用件数）（利用者数）（稼働率）等 | |
| ⑤ 運営状況 | |
| ⑥ コスト状況【市民センター・公民館】【市民センター機能】【公民館機能】 | |
| ⑦ 評価・分析【市民センター機能】【公民館機能】 | |
| ⑧ 将来コストの予測 | |
| ⑨ 問題点・課題 | |

| | |
|---------------------------|-----|
| (2) 図書館 | 56 |
| (3) 市民の家 | 78 |
| (4) 小・中・特別支援学校 | 91 |
| (5) 保育所 | 104 |
| (6) 児童館、地域子供の家 | 115 |
| (7) 老人憩いの家・老人ふれあいの家 | 125 |
| | |
| 第4章 主な広域対応施設の現状把握 | |
| (1) 市民病院..... | 132 |
| (2) 市民会館..... | 136 |
| (3) 湘南台文化センター..... | 140 |
| | |
| 第5章 地区別に見た地域対応施設の実態 | |
| 1. 分析の流れ | 144 |
| 2. 地区別実態把握 | |
| (1) 辻堂地区・鵠沼地区・片瀬地区 | 145 |
| (2) 藤沢地区・村岡地区..... | 147 |
| (3) 明治地区・湘南大庭地区・善行地区..... | 149 |
| (4) 六会地区・湘南台地区・長後地区..... | 151 |
| (5) 御所見地区・遠藤地区..... | 153 |
| | |
| 第6章 今後の公共資産のあり方 | |
| 1. 改善の方向性 | 155 |
| 2. 今後の進め方 | 156 |

※1 目次中、第3章(2)図書館以下の各施設及び第4章の各施設の用途別実態把握については、第3章(1)の市民センター・公民館とほぼ同様であるため省略しています。

※2 この白書では、より理解しやすいように次のような表記をしています。

- ・ 年の表記 (例) 1995年(H7)
- ・ 元号の表記 (例) 昭和・・S 平成・・H
- ・ 数値の表記 (例) 12,345・・→1万2,345

※3 この白書では、次のような端数処理をしています。

- ・ 文章中の合計数値等は、億円、万円に記載しているため、グラフ等の数値の計と一致しないことがあります。また、「約」を付けずに表記している場合があります。
- ・ 図のグラフデータ等の数値は端数処理により合計と一致しないことがあります。
- ・ コストについては小数点以下までの億円(万円)単位で整理、分析をしています。